

# 生研 ニュース

1990. 1. 22  
No.1



●東大生研所長  
岡田恒男

生研ニュースを  
よろしく

これまで不定期であった所内報「生研ニュース」を新たな企画のもとに隔月に発行することといたしました。

工学における基礎研究と応用研究を通じて科学技術分野での研究・教育を推進する総合的な工学研究所として、本所が東京大学に附置されて40年が経過いたしました。この間、所外の学会誌などにより研究成果を発表することはもちろんのこと、所としても月刊機関誌「生産研究」をはじめ、「生研報告」、「生研リーフレット」、「年次要覧」、

「生研パンフレット」等を刊行し、研究・教育活動を社会に還元する努力を重ねてまいりました。

今回刊行する「生研ニュース」は、これらとは趣きをかえ、所内での情報伝達を活性化し、併せて所外の方々にも本所の平素の活動状況をお知りいただくことを目的としたもので、編集には本所若手教職員が当たります。

スタイルが固まるまでには若干の時間がかかるかもしれませんが、御愛読下さいますようお願いいたします。

## 「インフォメーション・フュージョン(リコー)」 寄付研究部門を開設

標記の寄付研究部門が、(株)リコーからの奨学助成により、平成2年1月から3年間の予定で開設されました。このような寄付講座・研究部門制度は、国立大学における奨学を目的とした民間などからの寄付の有効活用、教育研究の豊富化、活発化を図ることを目的として、昭和62年に文部省で定められたものであります。東大においてはすでに先端研に7研究部門、経済学部にも1講座が開設されていますが、本所では最初の寄付研究部門となります。

### ◆経緯◆

昭和63年に(株)リコーより寄付研究部門の理念に基づき、情報システムに関する研究の促進を図るための寄付研究部門開設のための奨学助成の申し出があり、第3部が対応することとなりました。本所では最初のケースであり、まだ寄付研究部門に関する規定もなかったことから、まず規定作りを進め、

平成元年6月21日の教授総会で寄付研究部門に関する規定を定めました。この規定に従い、寄付研究部門運営懇談会の審議を経て、7月19日の教授総会で受け入れが承認され、その後、文部省への設置申請、協議を行い、12月4日に設置が承認されました。

(株)リコーからの当初の申し出は、「情報システムに関する新しい研究分野を拓く寄付研究部門」ということでありましたが、第3部で協議した結果、情報システムに係る異種領域、異種技術の接合、融合による新しい学術分野(discipline)の開拓、確立を図ることが重要と考え、名称を「インフォメーション・フュージョン」といたしました。またこの名称には、都市型研究所としての生研が果たすべき「情報の広場」、「知の広場」としての役割もこめられております。

### ◆研究内容◆

情報化社会の進展にともない、

情報システムの分野ではコンピュータのハードウェアとソフトウェアに関する既存の基盤技術を進展させることと並行して、新しい領域に対応する枠組みを開拓することが重要になってきています。本研究部門は、人間とコンピュータの接合、協調に関する新しい枠組みの研究を進め、総合的学術分野(discipline)としての確立を図ることを目的としており、その要素技術に、1)知識処理、2)マルチメディア技術、3)ヒューマンインターフェース技術、4)マイクロデバイス機器技術、を設定しております。

### ◆客員教授・客員助教授◆

客員教授には英国プリストル大学のハーベイ・アブラムソン博士を、客員助教授には米国AT & Tベル研究所のカイエム・ガブリエル博士を招聘しました。以下に略歴を紹介いたします。

### ■ハーベイ・アブラムソン(Harvey Abramson)教授



1940年生れ(49歳)  
国籍：アメリカ合衆国  
1962年ブルックリン大学卒、B.A.  
1964年ウィスコンシン大学修士卒、M.S.  
1970年セントアンドリュース大学博士卒、Ph.D.  
セントアンドリュース大学講師、ベル・ノーザン研究所・研究員、マギール大学助教授、ブリティッシュコロンビア大学準教授、教授を経て、1988年よりプリストル大学(英国)コンピュータ科学科リーダー。  
専門は論理プログラミングと自然言語処理であり、「Logic Grammars (V.Dahlと共著)、Springer-Verlag, 1989」等の著書がある。

### ■カイエム・ガブリエル(Kaigham J. Gabriel)助教授



1955年生れ(34歳)  
国籍：アメリカ合衆国  
1977年ピッツバーグ大学、B.A.  
1979年マサチューセッツ工科大学修士卒、M.S.  
1983年同博士卒、Sc.D.  
マサチューセッツ工科大学講師を経て、1985年よりAT & Tベル研究所・研究員。  
専門はマイクロメカニクスで、この研究分野の若手第一人者である。

## ■ 学術講演会「新しい工学の基礎」

11月22日(水)午後1本所第1会議室において「新しい工学の基礎」をテーマとする学術講演会が開催された。新しい社会へ向けての「工学の基礎とは何か？」を幾つかの側面から浮き彫りにし、工学の基礎研究を進めるうえでの理念、指

針の確立に寄与することを目的に企画したものである。

石井威望教授(工学部)、末松安晴東京工業大学学長の講演、および本所教官5名〔生駒(司会)、片山、中川、榊、の各教授、石塚助教授〕によるパネル討論が行われた。講

演は各先生の経験に立脚した非常に示唆に富んだものであり、またパネル討論では活発な意見交換が行われた。有馬総長をはじめ本所名誉教授、ならびに産業界からの方々を含め約120名が出席し、大変盛況であった。



特別講演者  
石井教授  
(東大工学部)



特別講演者  
末松教授  
(東工大学長)



講演参加者とパネラーの先生がた。左より、榊、片山、石塚、中川、生駒(司会)



## 大学院工学系 研究科委員会の 懇談会開かれる

さる12月14日の夕方5時半から、大学院工学系研究科委員会の委員の先生がたと生産技術研究所の教官との懇談会が健保会館で開かれました。当日は1年に1回工学系の研究科委員会と常務委員会が生研で開催される日に当たっており、そのあとでこのような懇談会をもつことが数年来の慣例になっています。

吉川弘之(工学部長)、伊藤学(協議員)、伊理正夫(総長特別補佐・前工学部長)など工学部から20人あまり、物性研究所、先端科学技術センターから数人、生研からは約20人の出席があり、全部で50人

近いかたがたが集まりました。

岡田所長、吉川学部長、伊理特別補佐のあいさつに続き、増子前所長の乾杯で始まった懇談会は約1時間半にわたり、いつもの堅苦しい場をはなれて、研究のこと、教育のこと、生研や工学部の将来、さらには私事、雑事などを、自由でなごやかな雰囲気の中で話し合う会となりました。

幸い好評な会のようなので、今回は欠席の工学系・理学系研究科の先生がたも次回は参加されてはいかがですか。

(片山 恒雄記)

## 所長と 生研職組 との交渉

12月13日(休)15時より17時40分まで、生研第4会議室において標記の交渉が行われた。出席者は岡田所長、白石・木下職員担当所長補佐、岡野所長補佐、事務部から松本事務部長、梅原総務課長、相浦総務課長補佐、岡村人事掛長、組合から板倉委員長、鈴木副委員長、谷田貝書記長ほか、約20名であった。交渉事項および所長の説明は次のとおりであった。

### (1)昇格について

十分な経験と資格があると本所から推薦した職員が、今回の6級昇格から漏れたことは大変残念である。3級の職員にも昇格の遅れている例のあることをよく認識し

ている。これは構造的に大変難しい問題であるが、今後も定数確保など引き続き努力していきたい。

### (2)技術職員の組織化について

総長の諮問に答える、生研を含む数部局からなる検討会が作られ、年内に第1回が開かれる。生研については、今後も教職員の意見を聞き、理解を求めながら対処したい。

(3)人事院勧告早期完全実施について  
例年どおり適当な時期に要望書を出すことにしたい。

(4)生研のキャンパス問題について  
今のところ変化はない。

(職員担当 木下 健記)

## ● 生研訪問者

平成元年 4月26日(水)

CETIM (機械技術工業研究所)  
 所長 George Dureau ほかに2名 ● フランス

9月19日(火)

Deputy Director Programmes  
 Dr. David Clark ほかに1名 ● 連合王国

10月4日(水)

中国科学技術大学  
 学長 谷 超豪 ほかに6名 ● 中国

10月23日(月)

中国西安交通大学  
 副学長 孫 国基 ほかに2名 ● 中国

11月2日(水)

Technology Transfer Centre  
 Dr. M. N. B. Ayiku ● ガーナ

12月4日(月)

杭州電子工業学院  
 院長 周 行権 ほかに3名 ● 中国

## ● 外国人研究者講演会

※( )内は、講演会参加者数

■ Dr. Li Fang-Hua [中国科学院北京物理研究所]  
 元. 11. 6 (15名)  
 "Grain Boundaries of High Tc Superconductors and Defects of Quasicrystals"

■ Dr. Masanobu Shinozuka [Princeton Univ., USA]  
 元. 10. 31 (31名)  
 "Recent Developments in Structural Safety and Reliability"

■ Prof. Steven Tanimoto [Univ. of Washington, USA]  
 元. 11. 30 (34名)  
 "Automatic Reasoning about Performance of Image Processing Systems"

■ Prof. C. F. Shih [Brown University, USA]  
 元. 12. 8 (27名)  
 "Crack Growth by Boundary Cavitation in the Transient and Extensive Creep Regimes"

■ Dr. Siegfried Schmauder [Max-Planck Institute of Metal Research, West Germany]  
 元. 11. 15 (25名)  
 "Stress Analysis of Metal-Ceramic Composites"

■ Prof. Armen Der Kiureghian [University of California, Berkeley, USA]  
 元. 11. 29 (28名)  
 "The Armenian Earthquake of December 7, 1988"

■ Dr. Cedric John Powell [National Institute of Standards and Technology]  
 元. 11. 20 (25名)  
 "Reference Materials and Reference Data for Quantitative Surface Analyses"

## ● 叙勲

平成元年

5月16日 ● 死亡叙位 (正五位)

白方之次 元事務部長

8月12日 ● 死亡叙位 (正四位)

高橋武雄 元教授(第4部)

11月3日 ● 紫綬褒章

久保慶三郎 元教授(第5部)

11月3日 ● 生存者叙勲

(勲三等旭日中綬章)

水町長生 元教授(第2部)

## ● 受賞

日本IBM科学賞が、本所神裕之教授(第3部)に贈られました。本賞は、毎年、「物理」、「化学」、「コンピュータ・サイエンス」、「エレクトロニクス」の各分野で顕著な研究業績をあげた研究者に贈られるもので、本年度は各分野それぞれ1名ないし2名の合計6名が受賞されました。榊教授は「半導体量子構造に関する研究(エレクト



ロニクス部門)により本賞を受賞され、昨年12月5日、ホテルオークラで受賞式が行われました。賞金は300万円。

## ■人事異動（平成元年4月2日以降）

### 教官

発令月日	氏名	異動事項	新官職(所属)	前官職(現官職)(所属)
4.15	鈴木 實	退職		文部教官助手 (第四部)
5.1	高井 信治	昇任	文部教官助教授 (第四部)	文部教官講師 (第四部)
*	高橋 裕	昇任	文部教官助手 (工学部)	文部技官 (第四部)
*	酒井 啓司	採用	文部教官助手 (第一部)	
7.1	高木 聖志郎	昇任	文部教官教授 (第一部)	文部教官助教授 (第一部)
*	畑 中 研一	昇任	文部教官助教授 (東京工業大学工学部)	文部教官助手 (第四部)
7.16	竹光 信正	採用	文部教官助教授 (第一部)	
8.16	吉田 孝	昇任	文部教官助手 (第四部)	文部技官 (第四部)
8.31	岡 泰道	退職		文部教官助手 (第五部)
9.1	八代 盛夫	採用	文部教官助手 (第四部)	
*	沖 大幹	*	文部教官助手 (第五部)	
9.16	河合 潤	昇任	文部教官助手 (第四部)	文部技官 (第四部)
9.30	南 直樹	退職		文部教官助手 (第四部)
*	河合 潤	*		
10.1	川島 博之	*	農林水産省農業環境技術研究所環境資源部水質管理科主任研究員	文部教官助手 (第四部)
10.16	迫田 章義	採用	文部教官助手 (第四部)	
11.1	大蔵 明光	転出	文部教官教授 (宇宙科学研究所宇宙輸送研究系)	文部教官教授 (附属先端素材開発研究センター)
*	*	併任解除		附属先端素材開発研究センター長
*	*	併任	文部教官教授 (附属先端素材開発研究センター)	文部教官教授 (宇宙科学研究所宇宙輸送研究系)
*	岡田 恒男	事務取扱	附属先端素材開発研究センター長	
*	大澤 裕	転出	文部教官助手 (埼玉大学工学部)	文部教官助手 (第三部)
12.1	山本 英夫	昇任	文部教官助教授 (第四部)	文部教官講師 (第四部)

### 事務官・技官等

発令月日	氏名	異動事項	新官職(所属)	前官職(現官職)(所属)
4.16	佐々由美子	採用	文部事務官 (第四部業務掛)	
*	高寺喜久雄	*	文部技官 (第四部)	
6.1	須藤 博三	転任	文部事務官信州大学医学部附属病院庶務課	文部事務官経理課用度掛
6.16	池田たつ子	昇任	文部事務官経理施設掛工事契約主任	文部事務官 (第四部)
*	堀 哲男	勤務換	文部事務官経理課用度掛	文部事務官経理施設掛
6.21	石黒 保之	死亡		用務員 (第五部)
7.1	大柳 一夫	採用	文部事務官 (第四部業務掛)	
8.1	藤巻美恵子	配置換	文部事務官 (附属図書館情報管理課)	文部事務官 (総務課図書掛)
*	北村 貴子	転任	文部事務官 (総務課図書掛)	文部事務官 (神戸大学附属図書館教養部分館)
8.31	福士 栄生	退職		文部事務官 (総務課庶務掛)
9.1	高山 鉄也	配置換	文部事務官 (総務課庶務掛)	文部事務官 (経理課施設掛)
*	津田 良平	勤務換	文部事務官 (総務課庶務掛)	文部事務官 (総務課第四部業務掛)
*	三浦 友也	*	文部事務官 (総務課第四部業務掛)	文部事務官 (総務課庶務掛)
9.30	斎藤 政時	併任満了		文部事務官 (文部省大臣官房福利課)
10.1	*	転山	文部事務官 (上越教育大学)	文部事務官 (経理課用度掛)
*	並木 葉介	配置換	文部事務官 (経理部主計課予算第四掛)	文部事務官 (経理課司計掛)
11.1	山本 宏	昇任	文部事務官 (海洋研究所経理課会計主任)	文部事務官 (経理課用度掛長)
*	中村 明承	転任	文部事務官 (経理課給与掛長)	文部事務官 (宇宙科学研究所管理部門契約課契約第二係長)
*	小林 健策	配置換	文部事務官 (経理課用度掛長)	文部事務官 (経理課給与掛長)
*	酒井 清武	*	文部技官 (経理課施設掛)	文部技官 (第一部)

## ■外国人招聘研究員

● A. W. Jayawardena  
(香港大学)

元 9.18~2.8.17

# INFORMATION

## ■ 生研セミナー

コース	テ ー マ	講 師	期 日	定員
150	クロマト分離の工学（第2回）	教授 鈴木基之 助教授 高井信治	1月30日(火) 31日(水)	40名
151	非晶質・準結晶の構造解析と基礎科学	助教授 安井 至 助教授 七尾 進 ほか2名	1月31日(水) 2月1日(木)	40名
152	光学系理論の基礎と応用（第6回）	教授 小倉啓夫 助教授 黒田和男	1月26日(金) 2月2日(金)	50名

## ■ 第3回 生研公開講座(イブニングセミナー)

テーマ：「都市と環境 —21世紀に向けて—」

題 名	講 師	期 日
(10) 東京の空間指標	助教授・藤井 明	1月19日(水)
(11) 安全な都市・安心な都市	教授・片山恒雄	1月26日(金)

※時間はいずれも午後6時から7時30分まで。  
受講無料。

## ■ 生産研究特集号のお知らせ

### 生産研究「特集号」

1月号 乱流の数値シミュレーション(NST)その6  
(1月17日発行)

### 生産研究「小特集号」

3月号 地震工学 一解析的・実験的研究の新しい展開—  
(3月中旬発行予定)

## ■ 第7回 生研同窓会 (事務系職員) 開かれる



12月1日(金)午後6時から第7回生研同窓会の懇親パーティーが山上会館談話ホールで開催された。岡田所長はじめ、元所長を含めた生研OB、現役など103人が出席した。パーティーは岡田所長の挨拶に始まり、田中元事務部長の乾杯の音頭ののち、元所長、事務部OB等のスピーチがあり、ひさしぶりにあった友との歓談、近年の生研の状況などの話に花が咲き盛況のうちに午後8時、2年後の再開を約して散会した。

## ■ 自衛 消防訓練



生研では、12月7日(休)午後2時から麻布消防署の指導のもとで、教職員・学生等約80人が参加して自衛消防訓練を実施した。当日は、午後2時より第1会議室において所長の挨拶に続き、麻布消防署原山署長の火災予防の心得と、防災活動等の指導講演ならびに映画(あなたと防災)の上映を行った。その後、本館中庭において消火器による消火演習と、屋内消火栓による放水実演を実施した。最後に、麻布消防署からの講評があり、午後3時30分予定どおり消防訓練を終了した。

## California大学 Los Angeles校にて

第二部 助教授 西尾茂文



California大学Los Angeles校は、Los Angelesダウンタウン西方約8マイルに位置し、東はベマリヒルズ、北はベルエア、西はサンタモニカに囲まれた絶好の場所(?)にある。1988年7月初旬より翌年3月中旬まで8ヶ月余り、長期研修のためここに滞在し、冷却制御工学に関する研究・調査を行う機会を得た。

具体的滞在目的の第1は、「沸騰現象の基本構造」

に関してDhir教授と包括的議論を行うことであった。議論の中で、現象を構成する素過程群とそれを基盤とした統一的モデル構築に関する認識がお互いに深まったことは成果の一つであった。彼の研究室には、Ph. Dコース学生が6人、research associateが1人いたが、すべて「外国人」であり、彼自身もインドからの移民であり、現在の米国の工学が誰により支えられているかを物語っているように感じられた。

ところで、Los Angelesダウンタウンの治安の悪化はひどく、そのためもあって住居は、UCLA南方25マイル程度のパロスベルデス地区に定めた。ここは、極めて家賃が高く、「研修」で渡米した我々一家にとって生活は楽ではなかったが、ダウンタウン近郊ではもはや伝説である「カリフォルニアの青い空」が満喫でき、経済的に苦しかった生活も今は懐かしい。こうした事情もあって、十分な旅行が出来ず、第2の目的であった非晶質を含む「金属組織制御における冷却制御工学」の現状調査が不十分に終わらざるを得なかったのは残念であった。

目的の第3は、Frederking教授との議論を通じて、酸化物を含む「超電導体の冷却安定性」の展望をまとめることであり、この成果は生産研究にすでに掲載した。しかし、こうした仕事と、ファクシミリという「不便」な道具により否応なく日本より送られて来る仕事との並列処理の毎日には、いささか閉口した。やはり、海外での長期滞在は、若い内にかぎるといのが40才を迎えた私の実感である。

### 「生研ニュース発刊によせて」

このたび、渡辺正室長をはじめ生研ニュース編集室の皆様の御努力により、「生研ニュース(IIS News)」創刊号を発行する運びとなりました。「生研ニュース」は、本所の従来の印刷物に人と人とを結びつけるための「柔らかさ」を付け加え、読者の皆様にとって本所構成員の「顔がみえる」ような媒体をめざしております。したがって、「Topics, Report, Personnel, Plaza」など新しい発想のもとに紙面を構成しております。

人と人の触れ合いを大切にする都市型総合工学研究所である生産技術研究所の「顔」として御愛読いただけますようお願い申し上げます。

(研究推進室長 二瓶好正)

### 生研ニュース編集室紹介

室長 渡辺 正  
 室員 中埜良昭  
 柳本 潤  
 平川一彦  
 梅原要次  
 武原稔子



(左から渡辺、武原、柳本、中埜、平川、梅原)

### 編集後記

皆様の御協力により、生研ニュース創刊号の発行にこぎつけ、大変嬉しくまた内心ホッとしております。年末の慌ただしい中、快く原稿執筆を引き受けてくださったかたがたには、ただただ感謝。時節がら、おせち料理の食べすぎで太り具合が気になる時期ですが、生研ニュースではますますスマートに話題をお届けして行きたいと考えております。今後とも御愛読のほどを。(編集室 中埜記)